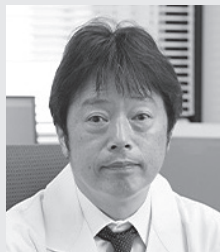


病院病理部／病理診断科

スタッフ紹介



部長
こじま もとひろ
小嶋 基寛

(臨床病理学教室
教授)
(消化器腫瘍病理)

副部長 森永友紀子 (臨床病理学教室 助手) (消化管病理)
診療科長 武田奈央子 (臨床病理学教室 助手) (呼吸器病理)

私たちの業務

病理部では、院内で提出される様々な臓器から採取される組織診・細胞診検体を適切に処理することで標準的な病理診断を行っています。また、検体の適切な保管により、様々なコンパニオン診断に対応可能な環境を構築しています。これらにより当院で行われる高度医療に必要な情報を提供し、支えています。

◆ 適切な試料管理と標本作製を介して、標準に沿った病理所見を提供しています。

当院では年間10,000件前後の組織検体や細胞診検体が提出されます。さらに、各臨床科から様々な臓器から検体が採取されます。我々はISO15189に沿った、検体の固定、切り出し、標本作製の工程を管理し、病理診断を行っています。また、過去の検体を適切に保管しているため、当院で保管されている試料を用いて質の高いゲノム診療やコンパニオン診断が可能です。また、患者様の経過に沿った情報を提供することも可能です。

◆ 詳細な病理評価と適切な報告

当院では8名の病理専門医と4名の専攻医を擁し、臨床情報や画像情報を十分に収集しつつ適切な病理診断が行われています。また、診断に使用する一般的な抗体類を多数常備し、希少がん等にも対応したマーカーを用いた組織検索が可能です。

◆ 専門化の進む各臨床科に対応すべく、医局員はsubspecialityを持っています。

各臨床分野における専門化、先端化はますます進んでいます。病理診断科ではそれに対応すべく、それぞれsubspecialityを持ち、積極的に関連臨床科と情報交換を行うことで、高度の医療に対応しています。

◆ 亡くなられた患者さんの病理解剖を行います。

医療技術の進歩した現在でも、病理解剖の意義は以前と全く変わりはありません。我々は基礎病理学教室とも連携・協力し、患者様の病理病態を解明し、少しでも医学の進歩に役立てるよう努力しています。

府立医大 病院病理部 TEL 075-251-5668 (医員室)